



TITLE:

泌尿器科領域におけるPentrexの使用経験

AUTHOR(S):

土田, 正義; 大越, 高光; 渡辺, 昌美; 木村, 行雄; 染野, 敬; 菅原, 博厚

CITATION:

土田, 正義 ...[et al]. 泌尿器科領域におけるPentrexの使用経験. 泌尿器科紀要 1965, 11(11): 1189-1193

ISSUE DATE:

1965-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112844>

RIGHT:

泌尿器科領域における Pentrex の使用経験

東北大学医学部泌尿器科学教室（主任 矢戸仙太郎教授）

助 教 授	土	田	正	義
研 究 生	大	越	高	光
助 手	渡	辺	昌	美
大学院学生	木	村	行	雄
〃	染	野		敬
〃	菅	原	博	厚

CLINICAL USE OF "PENTREX" IN UROLOGICAL FIELD

Seigi TSUCHIDA, Takamitsu OGOE, Masami WATANABE, Yukio KIMURA,
Takashi SOMENO and Hiroatsu SUGAWARA

From the Department of Urology, Tohoku University School of Medicine, Sendai

(Director: Prof. S. Shishito)

The effect of "Pentrex", a newly synthesized penicillin (aminobenzyl-penicillin), on infections of the urinary tracts was observed in 25 patients. "Pentrex" was administered orally with a daily dose of 1~2g. The drug was found to be quite effective to the infections by staphylococci, streptococci and gonococcus. It was also found to be effective to the infection by *E. coli*. No harmful by-effect was observed during or after its administration.

1. はじめに

種々の抗生物質の出現によつて、尿路感染症に対する治療にはめざましい進歩の跡がうかがわれる、けれどもこれらの抗生物質の使用が普及するとともに耐性菌の出現、および副作用の惹起などが見られ、薬剤使用に大きな制約が加わることとは明らかである。とくに Penicillin 使用時には副作用として時には極めて重篤なる症状を呈し、内服使用に際しては酸に対する不安定などによつて、耐性菌の出現とともに治療上なお多くの問題が残されている。これらの欠点に対して、化学的にある程度安定性を持った合成製剤の出現が期待されていたが、新しく合成された Amino Benzyl-Penicillin (Pentrex) はこの期待に応えるもので従来の Penicillin 同様 Gram 陽性菌、桿菌 および 耐性ブドウ状球菌に強い感受性を持つている。さらに

本剤がこれまでの Penicillin と異なることは Gram 陽性菌のみならず、Gram 陰性菌にも強い抗菌性を有し、かつ酸に対し安定であるため内服によつて治療効果が発揮される点が特徴である。このように抗菌性の範囲が広い点から本剤は広領域 Penicillin ともいわれている。このたび 私どもは 万有製薬より Pentrex の提供を受けたので、その使用経験を報告する。

2. 自 験 例

尿路感染症25例（男子18、女子7）に Pentrex を試用した。年齢は8才～68才で1日1000mg～2000mgを2日～13日間服用させた。効果の判定はまず薬剤投与前に尿又は分泌物中の白血球および細菌を検鏡し培養も行なつて菌を同定した。そして薬剤投与後にも尿又は分泌物中の白血球および細菌を同定し、必要に応じて培養を行なつた。さらに投与前後の臨床症状を比較し、次の規準により治癒、有効、および無効とした。

表 1 自 験 例

症 例	年 令	性	診 断	初診時尿所見	自 覚 症 状	他 覚 的 所 見	使 用 量	使用後尿所見	効 果	症 状 消 退 日 数	副 作 用	併用療法
1	68	♂	腎 盂 腎 炎	白血球 (卅) ブドウ状球菌	発 熱 腰痛	右 腎 触 知 圧 痛 (+)	1000mg×7	白 血 球 (+) ブドウ状 球 菌 (-)	有 効	5 日	軟 便	
2	20	♀	腎 盂 腎 炎	白血球 (卅) 大腸菌 (卅)	腰 痛 発 熱	左腎抵抗圧痛 (+) 左腎杯拡張	1000mg×7	白 血 球 (+) 大 腸 菌 (-)	治 癒	6 日	食欲不振	トランコパール 6 Tab $\frac{3 \times 1}{10T}$
3	37	♀	腎 盂 炎	白血球 (卅) ブドウ状 球 菌 (卅)	発 熱		1000mg×8	白 血 球 (-) ブドウ状 球 菌 (-)	治 癒	5 日		
4	48	♀	腎 盂 炎	白血球 (卅) 大腸菌	発 熱		1000mg×6	白 血 球 (-) 大 腸 菌 (-)	治 癒	6 日		
5	44	♀	腎 盂 炎	白血球 (+) 大腸菌 (+)	腰 痛		2000mg×6	白 血 球 (-) 大 腸 菌 (-)	治 癒	5 日		
6	33	♂	腎 盂 炎	白血球 (卅) 大腸菌	腰 痛 発 熱	両 側 腹 痛	1000mg×6	白 血 球 (+) 大 腸 菌 (+)	無 効	消退せず		
7	48	♂	腎 盂 炎	白血球 (卅) 緑膿菌	発 熱	右側後部圧痛	1500mg×3	白 血 球 (-) 緑 膿 菌 (-)	有 効	3 日	食欲不振	
8	36	♀	膀胱結石症 膀胱炎	白血球 (+) 大腸菌 (+)	頻 尿 排 尿 痛	膀胱鏡で結石 炎症所見	1000mg×5	白 血 球 (卅) 大 腸 菌 (+)	有 効	4 日		経尿道的 膀胱切石術
9	73	♂	膀 胱 炎	白血球 (卅) 大腸菌	頻 尿 排 尿 痛	膀胱鏡で 炎症所見	1000mg×5	白 血 球 (卅) 大 腸 菌 (+)	有 効	3 日	1. 軟 便 2. 腹部膨満感	
10	17	♂	膀 胱 炎	白血球 (卅) 大腸菌	頻 尿	膀胱鏡で 炎症所見	1000mg×5	白 血 球 (+) 大 腸 菌 (-)	無 効	消退せず		
11	48	♀	膀 胱 炎	白血球 (卅) 大腸菌	頻 尿 血 尿	膀胱鏡で充血	1000mg×6	白 血 球 (-) 大 腸 菌 (-)	治 癒	6 日		
12	8	♂	膀 胱 炎	白血球 (+) 大腸菌	排 尿 痛	膀胱鏡で充血	1000mg×7	白 血 球 (-) 大 腸 菌 (-)	治 癒	5 日		
13	35	♀	膀 胱 炎	白血球 (+) 大腸菌	頻 尿	膀胱鏡で充血	1000mg×10	白 血 球 (-) 大 腸 菌 (-)	治 癒	7 日		
14	40	♂	前 立 腺 炎	白血球 (卅) ブドウ状球菌	頻 尿 排 尿 痛	前立腺圧痛 腫大	1000mg×10	白 血 球 (-) ブドウ状 球 菌 (-)	治 癒	7 日		

15	33	♂	前立腺炎	白血球(+) 連鎖球菌	会陰部 不快感	前立腺腫大 圧痛	1000mg×13	白血球(+) 連鎖球菌	有	効	10日	
16	31	♂	前立腺炎	白血球(+) ブドウ球菌	頻尿	結節形成	1500mg×10	白血球(-) ブドウ球菌	治	癒	7日	食欲不振
17	28	♂	前立腺炎	白血球(+) ブドウ球菌	排尿痛		1000mg×10	白血球(+) ブドウ球菌	治	癒	10日	
18	54	♂	前立腺炎 +尿道炎	白血球(+) ブドウ球菌	頻尿 排尿痛		1000mg×10	白血球(+) ブドウ球菌	無	効消退せず		
19	33	♂	尿道炎	白血球(+) 連鎖球菌	頻尿 排尿痛		1500mg×7	白血球(-) 連鎖球菌	治	癒	5日	軟便
20	25	♂	尿道炎	白血球(+) 連鎖球菌	排尿痛		1500mg×5	白血球(-) 連鎖球菌	治	癒	3日	
21	26	♂	淋疾	白血球(+) 淋菌	排尿痛		1000mg×5	白血球(-) 淋菌	治	癒	3日	
22	32	♂	淋疾	白血球(+) 淋菌	排尿痛		1000mg×4	白血球(+) 淋菌	有	効	3日	
23	45	♂	副睾丸炎	白血球(+) 連鎖球菌	副睾丸痛	局所圧痛	1000mg×6	白血球(-) 連鎖球菌	治	癒	4日	
24	26	♂	副睾丸炎	白血球(+) ブドウ球菌	副睾丸腫脹	局所圧痛	1000mg×5	白血球(-) ブドウ球菌	有	効消退せず		
25	38	♂	副睾丸炎	白血球(+) 連鎖球菌	副睾丸腫脹	局所圧痛	1000mg×6	白血球(-) 連鎖球菌	治	癒	4日	

治療：尿または分泌物中の白血球および細菌が消失し臨床症状の改善もしたの。

有効：尿または分泌物中の白血球および細菌が消失したが、臨床症状の改善が不充分的なもの又は検鏡所見が変化しないが臨床症状の改善したもの、あるいは両者共多少改善したもの。

無効：尿または分泌物の検鏡所見および臨床症状の全く変化しなかつたもの。

表1に自験例の一覧を示す。

症例1. 右腎結石症の診断のもとに右腎盂切石術施行後、腎盂腎炎で Chloramphenicol を使用していたが治療せず Pentrex 1000mg 7日の使用により下熱し黄色ブドウ球菌の消失をみた。

症例2. 両側の腎盂腎炎で発熱と腰痛を訴え尿中白血球多数と大腸菌を証明し、Pentrex 1000mg 7日の投与により自覚症状の消失をみた。

症例3, 4, 5, 6, 7はいずれも術後の腎盂腎炎であるが尿中に大腸菌および緑膿菌を証明し、Penicillin, Streptomycin, Chloramphenicol, Tetracycline, 何れも無効で Pentrex 1000mg 3日～6日の使用で1例の無効例をのぞいて5例中4例が白血球、細菌および自覚症状が消失した。

症例8. 膀胱結石症の診断のもとに外来で経尿道的切石術を施行し、膀胱鏡的に膀胱粘膜は炎症所見が著明であつた。しかし1000mg 4日投与後には膀胱症状は消褪した。

症例9～13, 大腸菌性膀胱炎の症例であるが5例中3例は治療し、1例は有効で、1例は無効であつた。

症例14～18, 白色ブドウ球菌による前立腺炎の患者で3例は治療し、1例有効、1例は無効であつた。

症例19～20. 尿道炎の患者でいずれも溶血性連鎖球菌が起因であるが1000mg 5～7日投与で治療している。

症例21, 22, 急性淋菌性尿道炎の患者であるが、持続性 Sulfa 剤3g 3日投与で無効であつたので Pentrex 1000mg 4日～5日の投与で1例は治療し、1例は有効であつた。

症例23～25：前立腺肥大症にて前立腺摘出術施行20日後に副睾丸炎を発症し、Pentrex 1000mg 5日～6日間の投与で2例は治療し1例は有効であつた。

以上の症例を診断別に治療効果を区分し、表2に示した。全体的な治療効果をみると、治療率は56%、有効率は32%である。

表3は菌種別に治療効果を区別したもので、ブドウ球菌による7例中4例が治療し、2例が有効で1例は無効であつた。連鎖球菌による感染に対しては、5

表2. 診断別治療効果

診 断	例 数	治 癒	有 効	無 効
腎 盂 腎 炎	2	0	2	0
腎 盂 炎	5	4	0	1
膀 胱 炎	5	3	1	1
膀胱結石症 兼膀胱炎	1	0	1	0
前立腺炎	4	3	1	0
前立腺炎 +尿道炎	1	0	0	1
尿 道 炎	2	2	0	0
淋 疾	2	1	1	0
副 睾 丸 炎	3	2	1	0
計	25	15	7	3

表3. 菌種別治療効果

菌 種	菌 数	治 癒	有 効	無 効
ブドウ球菌	7	4	2	1
連鎖球菌	5	4	1	0
大 腸 菌	10	5	3	2
緑 膿 菌	1	0	1	0
淋 菌	2	1	1	0
計	25	14	8	3

例中4例が治療しており、1例には有効であつた。連鎖球菌群には無効例はなかつた。大腸菌感染では10例中5例は治療し3例には有効、2例では無効であつた。緑膿菌感染では有効であり、淋菌感染の1例は治療し1例は有効であつた。

3. 副作用

Pentrex 使用例に Penicillin 使用時のような、ショックの如き重篤副作用は勿論、発疹、悪心、嘔吐、発熱などの副作用はみられなかつたが、3例に食欲不振、軟便、1例に腹部膨満感をみた。

4. む す び

尿路感染症25例に Pentrex 1000mg～2000mg を3日乃至13日間経口投与し治療効果をみたが、ブドウ球菌、連鎖球菌、および淋菌に

よる感染症には非常に有効であつた。また大腸菌による感染に対しても相当の抗菌作用のあることをみとめた。

(御指導、御校閲下さつた恩師穴戸教授に深く感謝する。)

文 献

- 1) Sheehan, J. C. et al. : J. Am. Chem. Soc., **79** : 1262, 1957.
- 2) 鳥居敏雄ら：日本臨床, **16** : 1901, 1958.
- 3) 黒川一男ら：万有製薬シンシリン文献集, 114, 1960.

- 4) 大越正秋ら：万有製薬スタフシリンV, 文献集, 66 : 1962.
- 5) Rolinos, G. N. et al. : Brit. Med. J., **2** : 191, 1961.
- 6) Brown, D. M. et al. : Brit. Med. J., **2** : 197, 1961.
- 7) Kunudsen, E. T. et al. : Brit. Med. J., **2** : 198, 1961.
- 8) 水野重光ら：ペントレックス文献集, 28, 1963.

(1965年7月1日受付)